

令和4年8月1日

第218号

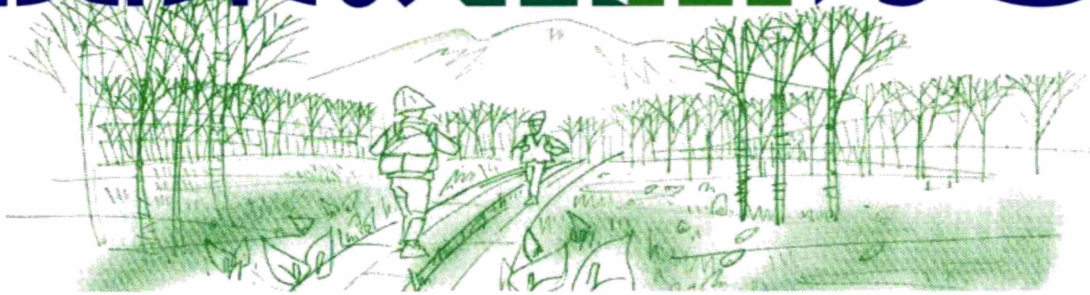
# 関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25  
TEL.027-210-1158  
<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



【写真】避難指示解除区域等の森林施業の再開へ向けた取組  
(森林放射性物質汚染対策センター)

防災・減災、国土強靱化5か年加速化対策による治山事業 治山課・・・2

第32回国有林野管理審議会の開催！  
審議会の提言が取りまとめられました 保全課・・・4

動物の名前が付いているきのこ 総務課 中林芳輝・・・5

治山の現場から 大井川治山センター・・・6

森づくり最前線 天竜森林管理署 掛川森林事務所 森林官 瀬川元気・・・8

# 防災・減災、国土強靱化 5か年加速化対策 による治山事業

## 治山課

関東森林管理局では、山地災害防止機能・土壌保全機能、水源涵養機能などの森林の有する公益的機能を発揮させるため、山腹斜面の安定化や荒廃した溪流の復旧整備を図る治山事業を実施しています。これまでの治山事業の取組などにより、山地災害が発生した箇所においても、森林造成・維持が図られ、森林の機能が発揮されているところです。



H27関東・東北豪雨災害（日光森林管理署管内）の復旧状況

一方で、事前に治山施設を整備することにより山地災害の未然防止を図ることで、災害の復旧・整備に係るコストが抑えられることがあり、事前防災・減災の観点による予防対策にも取り組んでいます。

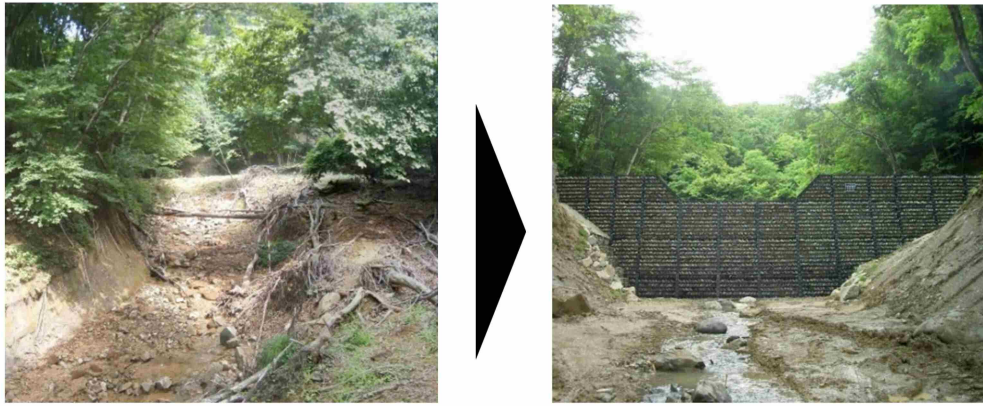
近年、気候変動の影響による大雨の増加にともなって、気象災害が激甚化・頻発化する傾向にあります。国民の生命・財産を守り、社会の重要な機能を維持するため、国土強靱化基本計画（平成30年12月14日閣議決定）に基づき、国を挙げて防災・減災、国土強靱化に取り組んでいるところです。さらに、政府は「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」（令和2年12月11日閣議決定。以下「5か年加速化対策」）を策定し、中長期的な数値目標（KPI）を掲げ、国土強靱化の取組の更なる加速化・深化を図っています。

治山事業における5か年加速化対策としては、土石流等のリスクが高い地域（山地災害危険地区）、重要なインフラ周辺等のうち特に緊急性の高い地域、氾濫河川上流域等において、森林の防災・保水機能を発揮させる治山施設の整備などに取り組んでいます。

そこで今回は、関東森林管理局における具体的な事例を2つ紹介します。

### ① 栃木県塩谷郡塩谷町の三本檜地区

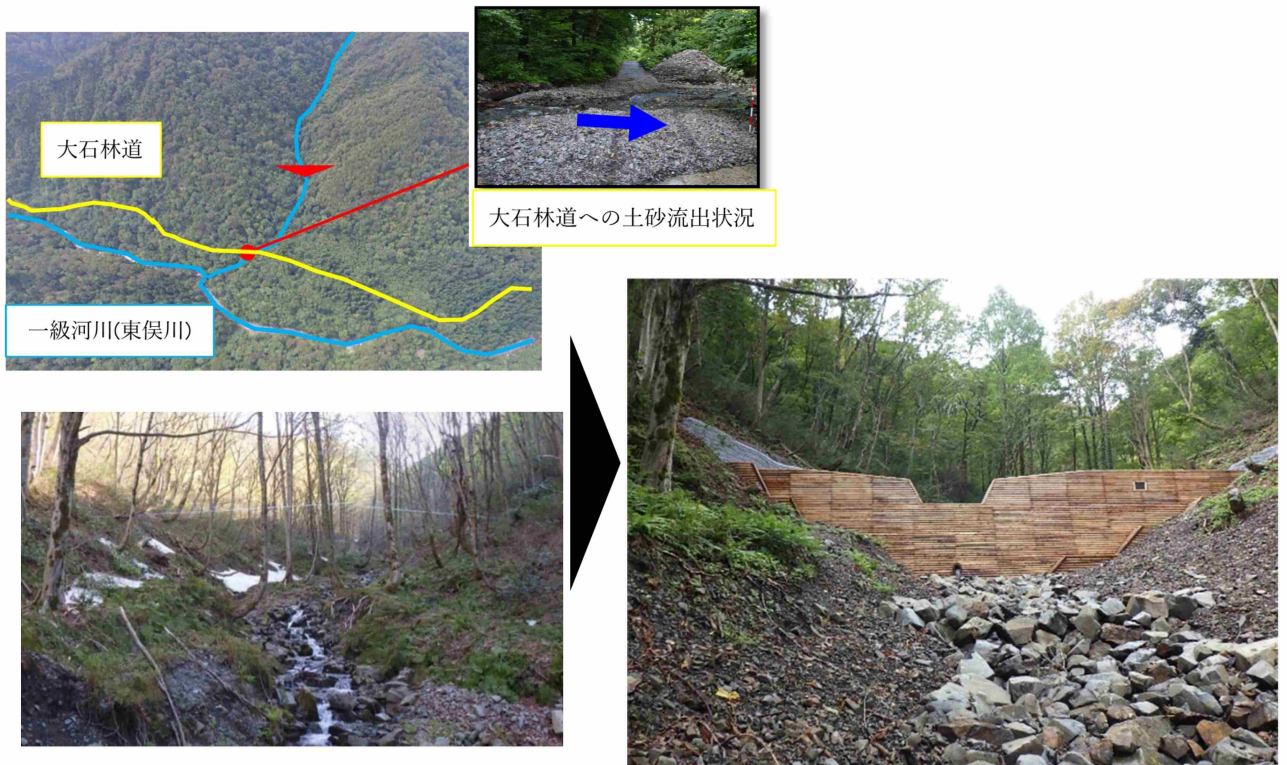
これまで治山施設が整備されていない土石流の発生のおそれがある溪流（崩壊土砂流出危険地区）において、治山ダム1基を整備することで、土砂の流出を抑制し、下流域の保全対象への被害防止を図っています。治山ダムは、鋼製の枠に石を詰めるタイプの工種を選定しました。



栃木県塩谷町三本檜地区

② 新潟県岩船郡関川村のイブリサシ地区

①と同様の渓流において、大雨時に下流の林道まで土砂が流出したことがあり、コンクリート製の治山ダムを1基整備し、土砂の移動を抑制することで、大石林道と1級河川の東俣川を保全しています。治山ダムの施工に当たっては、木製残置式型枠を利用し、木材利用促進と景観に配慮しました。



新潟県関川村イブリサシ地区

5か年加速化対策は、令和3年度から7年度までの5年間の取組です。関東森林管理局では、引き続き、荒廃した渓流や山腹の復旧とあわせ、治山施設の整備による事前防災・減災対策に取り組んでまいります。また、大規模な山地災害が発生した際には、被災自治体と合同でのヘリコプター調査、ドローンを活用した現地調査、被災自治体への職員派遣(MAFF-SAT)などにより、民有林に対する技術的支援も行っております。

# 第32回国有林野管理審議会の開催！

## 審議会の提言が取りまとめられました

## 保全課



関東森林管理局では、国有林野の管理処分 of 適正化に資するため、一定規模以上の国有林野の売払いや貸付けを行う際、関係行政機関や各界の意見を広く聴く国有林野管理審議会を林野庁長官通知に基づき設置しています。現在の委員は、行政委員6名と学識経験者12名の計18名となっており、このうち6名が女性です。

国有林野管理審議会は、国有林野の売払いや貸付けの案件がある場合に随時開催されます。

直近の審議会は、令和4年6月28日に開催され、東北電力ネットワーク株式会社による東

北東京間広域連係線丸森いわき幹線新設工事について審議されました。

この広域連携線は、大規模災害時における電力の安定供給や電力取引の活性化、再生可能エネルギーの導入拡大を目的として、電気事業者で構成される電力広域的運営推進機関が計画したものです。東北地方と関東地方を結ぶ広域連係線は今のところ1ルートしかありません。2ルート化されることにより、電力供給信頼度の向上が図られ、大規模災害時における電力の安定供給に役立つこととなります。

広域連携線の建設ルートについては、社会面、自然環境面、技術面、法規制等の制限など多方面から検討され、福島県相馬市など7市町村に位置する約62haの国有林野を通過するルートが選定されました。

審議会では、事務局から事業の概要を説明した後、質疑が行われました。委員からは、送電線の建設に伴って伐採される立木の取扱い、対象地における断層の有無、盛り土等による災害の懸念への対応、景観上の懸念への対応等について意見が出されました。これらの意見について、事務局から回答を行い、異議無しの答申を受けました。

国有林野審議会は、新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響から、過去4回は書面での開催となりましたが、今回は対面とWEBの併用で開催されました。WEB会議の導入当初は、会議室からの音声が届かない、発言者の声が聞こえない、画像がフリーズするなどの通信トラブルがありましたが、最近では、高性能な音響機器を導入したことなどにより通信環境が改善されました。

近年、風力発電に係る国有林野の活用事例が多くなってきています。今後も、ICTの活用により遠方の委員の出席を容易にしつつ、活発な意見交換が行われるよう努めてまいります。



上写真) 赤崎局長の挨拶  
下写真) 質問に答える事務局

## 動物の名前が付いている きのこ

わからないきのこは採らない、食べない、人にあげないを徹底してきのこ中毒に注意してください。

### ムジナタケ (ナヨタケ科 ムジナタケ属) (食不適)

6月下旬から10月下旬にかけて、草地や林道の端などに散生する。

カサは、3cmから8cmで表面は茶褐色で繊維状のささくれに密に覆われる。

ヒダは、初め紫褐色で後に黒褐色になり柄に上生から直生する。

柄は、3cmから8cmで表面は白色で茶褐色の鱗片に覆われる。



### イヌセンボンタケ (ナヨタケ科 キララタケ属) (食不適)

4月下旬から10月中旬にかけて切り株や倒木上に群生する。

カサは8mmから12mmくらいで白色から薄い灰色で溝線があり、微毛に覆われる。

ヒダは、初め白色で後に黒褐色になり、柄に直生する。

柄は、1cmから4cmくらいで白色です。



### イタチタケ (ナヨタケ科 ナヨタケ属) (食不適)

7月上旬から10月下旬に広葉樹の倒木上に散生から群生する。

カサは、3cmから6cmくらいで表面は黄土色から黄土褐色で縁に内皮膜の切れた残りが綿くずの様に付着する。

ヒダは、初め帯白色で後に黒褐色になり、直生又は離生する。

柄は、4cmから8cmで白色でもろい、上部に内皮膜が環状にツバとして残る時がある。

イタチタケは、ミヤマイタチタケ、ハゴロモイタチタケ、ハイイロイタチタケなどの種類に分類されている。



### ムササビタケ (ナヨタケ科 ナヨタケ属) (食不適)

6月下旬から11月中旬に広葉樹の倒木や切り株の上に群生する。

カサは、3cmから5cmくらいで、淡黄土色で湿っていると暗茶褐色で白色の内皮膜の切れ端がカサの縁に付着する。

ヒダは初め淡灰褐色でしだいに暗褐色になり、柄に直生する。

柄は、3cmから8cmで白色でツバはない。



### ヤギタケ (ヌメリガサ科 ヌメリガサ属) (食用)

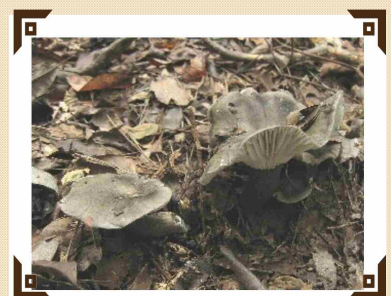
9月下旬から10月下旬に広葉樹林内地上に単生から散生する。

カサは、4cmから10cmで表面は灰褐色から黒褐色で湿っているときやや粘性がある。

ヒダは、白色で柄に垂生し疎です。

柄は5cmから10cmで表面は平滑でカサと同色又はやや淡色です。

食用になるが独特な臭いがある。



総務課 中林芳輝

# 治山の現場から

## 大井川治山センター

### 大井川治山センターの概要

大井川治山センターは、一級河川大井川の上・中流域にある多くの荒廃地を森林に復旧するため、民有林直轄治山事業を専門に実施する我が国唯一の治山センターとして、平成13年に静岡県川根本町に設置されました。

当センターの事業対象地は、大井川の上流域のうち井川ダムの上流と大井川支流榛原川です。大井川は、長野、山梨、静岡の三県にまたがる南アルプスの三峰岳(みつみねだけ)(標高2,999m)と山梨、静岡の二県にまたがる間ノ岳(あいのだけ)(標高3,190m。日本で第3位の標高。奥穂高岳(おくほたかだけ)と同位)に源を発し、赤石山脈と白根山脈の間を南下して、駿河湾に注ぐ約168kmにも及ぶ大河です。



▲ 大井川の源流部

### 災害の歴史

大井川は、流域の降水量が多く、急流河川であることから、多くの災害に見舞われてきました。災害に関する資料は市町村単位で集計されているため大井川流域として明確に区分することは困難ですが、明治38年から昭和57年までの間には死者・行方不明者の発生した災害が7件あります。死者・行方不明者105名、家屋の全半壊・流出328戸等の被害に見舞われました。

特に昭和57年には、台風10号と台風18号が襲来し、大きな被害を受けています。

さらに平成時代になっても、床上浸水、道路や鉄道へ崩土などの被害をもたらし、平成26年には、鉄道の運転再開まで約2年半を要する災害が発生しました。

### 令和4年度の事業紹介

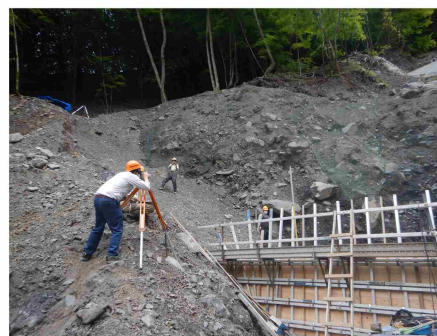
当センターでは、令和4年度は11件の工事と4件の調査を実施しています。

それらの工事のうち信濃俣地区は、大井川本流の畑薙湖第一ダム周辺に位置する流域面積約4,100ha、荒廃地面積約300haの地区で、当センター設置前の昭和41年の直轄事業開始直後から事業を実施してきました。

令和4年6月にコンクリート土留(どどめ)工、簡易法枠(かんのりわく)工、マット伏工等が完成し、地区全体の治山計画を完了できました。

この地区は今後、静岡県に治山施設の管理を引き継ぐ予定です。

また、他の地区についても治山計画に基づいて事業を進めて

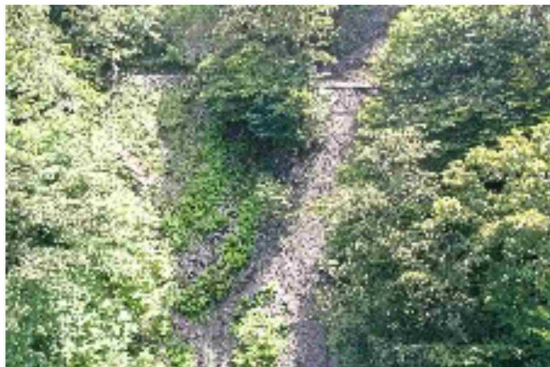


▲ 現場監督の様子

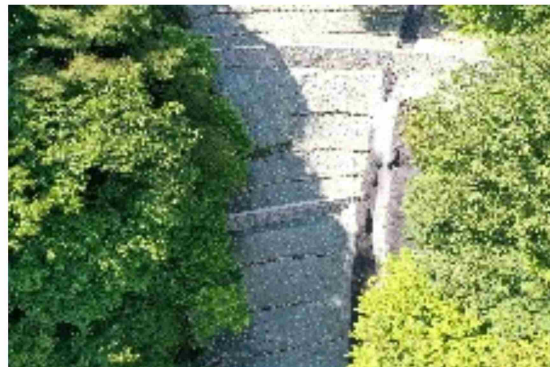
います。

全国でも有数の大規模崩壊地が点在する大井川源流部では、厳しい自然環境や交通アクセスの困難から治山工事の実施が困難な崩壊地が数多く存在しています。

このような厳しい環境下において効果の高い緑化技術の開発や効率的に施工管理ができるように、新技術を取り入れ荒廃地を森林に復旧する治山対策に取り組んでいます。



▲ 信濃俣地区の治山工事着手前



▲ 信濃俣地区の治山工事完成後

### 今月の表紙

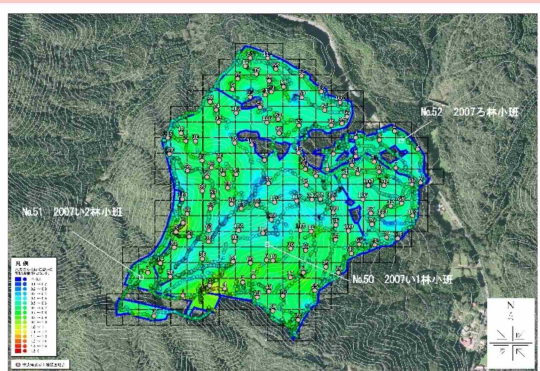
## 「避難指示解除区域等での森林施業の再開へ向けた取組」

森林放射性物質汚染対策センター



▲ 立木の部位ごとの放射性物質濃度調査

東京電力福島第一原子力発電所の事故から11年が経過し、避難指示が解除された区域等の森林施業の再開へ向けて、空間線量率や立木の放射性物質濃度等の調査を行っています。空間線量率調査は、小型のシンチレーション式サーベイメータ等を用いて林内を歩き、連続的に測定します。立木の樹皮等に含まれる放射性物質濃度の測定結果等も踏まえ、国有林の木材販売の実施を検討します。



▲ 空間線量率分布図  
(歩行サーベイ調査)



▲ 樹皮の放射性物質濃度調査



◀ 心材の試料採取

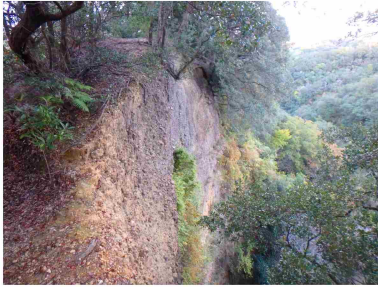
# 森づくり最前線

天竜森林管理署 掛川森林事務所 森林官 瀬川元気

私の勤務する掛川森林事務所は静岡県西部に位置する掛川市にあります。掛川駅から近く、周辺には山内一豊が治めた掛川城や、ラグビーワールドカップで試合会場となったエコパスタジアム、掛川花鳥園などの観光地があります。森林事務所から南方にある小笠山の国有林の管理を主に行っています。

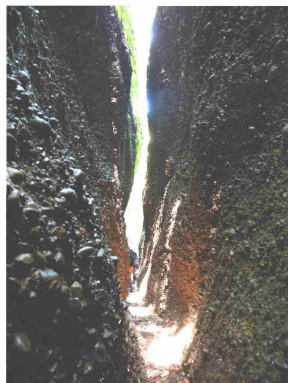
小笠山は、掛川市と袋井市にまたがる標高264.8mの低山で、その西側が国有林となっており、ふもとには茶畑が広がっています。里山と呼ばれるタイプの山ですが、ウバメガシが主体の天然林が広がり、長距離を移動することで有名なアサ

ギマダラや、「月、日、星、ホイホイホイ」の鳴き声が特徴のサンコウチョウなど、希少な動植物を見ることができます。また、



▲ ケスタ地形

地質的にも特徴があり、南西側はなだらかな斜面ですが、北東側では侵食が進み、崖状の地形(ケスタ)が現れ、岩肌を露出している場所が多くあります。中でも深い谷間にある六枚屏風は、一見の価値ありです。このように魅力溢れる場所であるため、自然観察会や野鳥観察会などのイベントが定期的に開かれています。国有林の一部を「レクリエーションの森(小笠山自然観察教育林)」に指定し、皆さんに快適に利用していただくため、歩道の巡視や危険木の撤去、最近では歩道沿いの樹木に樹名板を付ける取組を行っており、ハイカーから好評を得ています。



▲ 六枚屏風(内側)

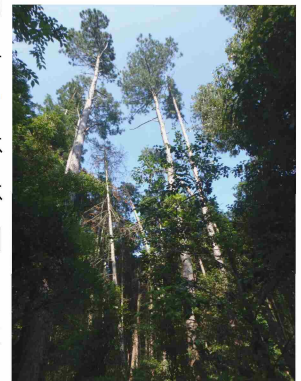
天然林が多くを占める小笠山の国有林ですが、全体の2割程度は人工林です。そのなかには、早生樹として最近注目を集めるテーダマツも植えられています。早生樹とは、一般的な人工林の樹種であるスギやヒノキと比較し成長が早い樹種で、30年生程度で木材利用が期待されています。昨年度には、テーダマツの活用のため、天竜森林管理署と静岡県森林林業研究センターの合同調査が行われました。小笠山のテーダマツは既に利用期を迎えていることから、「伐って、使って、植える」循環利用が確立できるよう、取り組んでいきたいと思っています。



▲ 自然観察会



▲ 樹名板



▲ テーダマツ



▲ 瀬川森林官